

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

早春の男体山



4月も半ば過ぎ、日光・男体山(2484m)に出かけた。男体山は二荒山とも呼ばれる。日光東照宮に二荒山神社があり、この男体山の登山口にあるのがその中宮祠、男体山山頂にあるのが奥宮である。

前夜は中禅寺湖畔、二荒山神社門前の民宿に泊り、宿の主人の蘊蓄を傾けた男体山講釈を聞きながら、ゆっくり山菜料理と地酒を楽しんだ。

朝7時出発。男体山参拝登山の開山日は5月5日とのことで、まだ中宮祠の門が開いていない。失礼して山門脇の隙間から無断侵入させていただいた(入山料をケチッて?)。ブナやコメツガ林の参道を辿る。コメツガの幹が軒並みに、腰の高さまで痛々しく樹皮がめくられて裸になっている。鹿の仕業だろうか。

三合目からは工事用車道を歩き、四合目で石の鳥居をくぐり、再び樹林の中の急登になる。雑木にダケカンバが混じり始め、手元の高度計が1650mを指す頃から男体山特有の観音薙と呼ばれるガレ場の直登が始まった。



息を切らしながらもグングン高度を稼ぐ。9時半頃、ようやく

くガレ場が終り、八合目の避難小屋にたどり着き一息入れた。

この辺りから凍りついた雪道となり、用意したアイゼンを着けての登山となる。九合目付近で樹林帯を抜け、視界が広がる。10時半山頂に到着し、名物の二荒山大神像に迎えられた。

山頂からの展望は素晴らしい。眼下の中禅寺湖、奥白根山はじめ日光の山々、皇海山がすぐ近くに

見える。尾瀬の燧ヶ岳や会津駒ヶ岳も白く輝いて眺められる。

好天に感謝し、奥宮に入山料代わりのお賽銭をたっぷり弾んで拝礼した。

のんびり昼食休憩の後は、欲張って裏登山道を志津乗越に向かい下山した。火口壁を北になぞり、崩壊斜面を下る。雪の多い北面を、アイゼンを効かしてのひたすらの急下降である。ところが途中で吹き溜まりに足を取られラッセルに難渋したりして、志津乗越到着が午後1時。後はカラマツ林の林道を歩き歩いて、ようやく三本松バス停に到着したのが何と午後4時だった。

